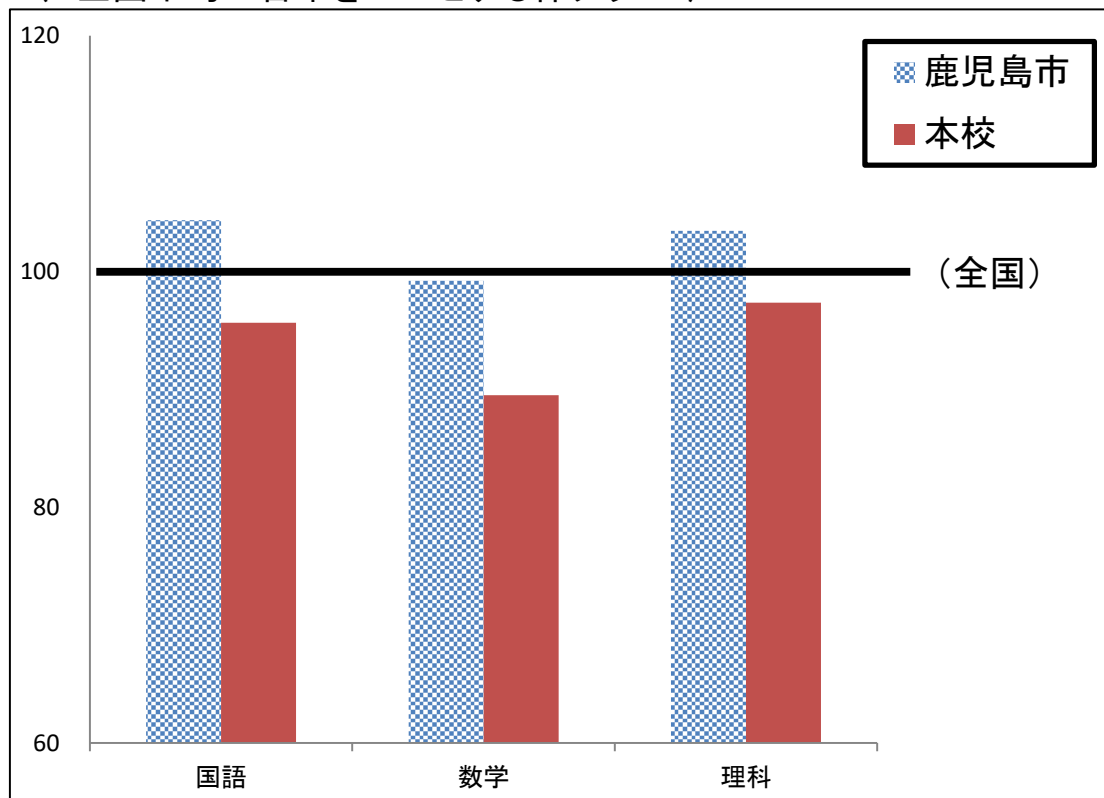


令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

紫原中学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均より高いですが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」は、いずれも低い結果となりました。無解答率が一番高かった、「自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫して話す」という点について、今後は、聞き手に応じた語句の選択や、表現を工夫することの大切さを考えながら、実際に声に出して効果を確認していくなどの課題設定を行っていきます。

〈数学〉

「データの活用」は全国平均より高いですが、「数と式」、「図形」、「関数」は、いずれも低い結果となりました。無解答率が一番高かった「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」という点について、今後は、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにし、与えられた条件を数学的に説明できるように整理していく時間を、授業の中で確保していきます。

〈理科〉

「『エネルギー』を柱とする領域」、「『地球』を柱とする領域」の2領域は全国平均より高いですが、「『生命』を柱とする領域」、「『粒子』を柱とする領域」は低い結果となりました。無解答率が一番高かった「考察の妥当性を高めるために、様々な視点から実験の計画を検討して改善できる」という点について、今後は、考察の根拠は明確かなどを検討し、より具体的な例を示しながら、課題に正対した学習場面が設定できるように工夫していきます。

〈全体的に〉

学力調査の結果から、「表現する」、「問題解決の方法を説明する」、「根拠を明確にする」といった趣旨の設問内容に、多くの課題がみられました。これらは、今回の調査に限らず、全教科において授業改善を図っていくための重要課題として捉えていきます。

生徒の質問紙の結果から、本校生徒の将来の希望に対する意識は高く、地域の活動へも積極的に参加している生徒の割合が、全国や県より高いことがわかりました。また、改善を要する点としては、平日2時間以上のテレビゲームやスマートフォン等を使ってのSNS利用が、県平均よりも10%ほど上まわっていることです。家庭学習のあり方も含めて各家庭でも考えていただければと思います。